

第72回日本皮膚科学会西部支部 学術大会を終えて

(2020年10月24・25日 Web開催)

村上 正基

愛媛大学大学院医学系研究科皮膚科学准教授

はじめに

第72回日本皮膚科学会西部支部学術大会を2020年10月24・25日の両日、Web上にて開催させていただきました。当初はリノベーションしたばかりの愛媛県県民文化会館(松山市)にての開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は収束の兆しに乏しく、残念ながら総会、他支部学会に続いて、本学術大会も皆様の安心・安全を第一に考え、Web開催とさせていただくこととなりました。

今大会の特徴

今回の学会のテーマは、雄大な広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ全長約60 kmのサイクリングロードのイメージから、「しろう まなぼう なかまと みよう」といたしました。A会場では、大会会長の意向を反映して、感染症、マイクロバイオーーム、海外演者によるEnglish speaking sessionsが催され、また直前に緊急企画として、COVID-19の最



図1 学会当日、日皮会事務局からの配信風景

新情報をお伝えすべく、日本感染症学会理事長・舘田一博教授(東邦大学)に「COVID-19との対峙—私たちの経験と英知を結集して—」と題してご講演いただき、いまや薄れていたCOVID-19に対する警鐘を鳴らしていただけたものと思います。

特別講演・招請講演

薬剤耐性に関して国立感染症研究所の菅井基行センター長に「AMR2020 —我が国の薬剤耐性の現状— 皮膚科医に向けたメッセージ」と題してご講演いただきました。COVID-19ばかりがややクローズアップされていますが、忘れてはならない非常に多くの細菌をはじめとする感染症が常にわれわれを取り巻いていると改めて認識することができました。ドイツのLars French教授に薬剤性皮膚障害の話題として「New insight into the mechanism underlying the“acneiform”eruption to EGFR and MEK inhibitors」と題して、薬剤障害のメカニズムに関する最新の知見をふんだんにご紹介いただきました。Cutting edge symposiumでは、英国のAndrew Finlay教授に「クリニックにおけるQOL評価方法」、米国のAnna DiNardo教授に「肥満細胞と皮膚マイクロバイオーーム」についてのご講演をいただきました。さらにFrench教授、DiNardo教授にはそれぞれ「Frontiers of Immunodermatology : Biologics in the Treatment of Psoriasis—Real World Data and Pitfalls」「New targets in psoriasis : Mast cells and IL-17」のご講演もいただき、台湾のChao-Kai Hsu教授には次世代型シーケンサーによるgenodermatosesのシンポジウムを行っていただきました。コロナ禍で対面型講演ができなかつ



図2 学会運営本部にて

左から日本皮膚科学会・山田紀子さん、著者、佐山浩二教授（会長）、日本皮膚科学会・山本亜紀子さん

たことが非常に悔やまれますが、海外の諸先生方からご多忙のところ熱いメッセージの入った講演ビデオをいただくことができたことはたいへん感謝の念に堪えません。

シンポジウム・教育講演

膠原病・血管炎、皮膚病理、マイクロバイオームのシンポジウムはそれぞれ2時間と、十分にご堪能いただけたものと思います。掌蹠膿疱症性骨関節炎(pustulotic arthro-osteitis : PAO)、薬疹、医療倫理などについてもその領域の第一人者にご講演をお願いいたしましたので、明日からの診療に役立つ情報を多数得ることができたものと確信しております。

文化講演

文化講演にはサッカー日本代表監督を務められた岡田武史氏をお迎えしました。海外選手たちのように、自らが考え行動する日本人選手を育て上げるためにFC今治の運営をお引き受けになったことと、この活動を通じて今治の街を再活性化させるためにさまざまな行動をおこされてきたというお話は、われわれ医療人、とくに地域医療を担う地

方大学病院医師たちをたいへん勇気づけていただくものでした。

特別企画

「会長と走るしまなみ海道」は、佐山浩二会長が撮りだめた(走りまくった)しまなみ海道自転車ツーリングビデオです。本来は学会上で幕間におみせする環境ビデオのイメージで撮影いただきました。しまなみ海道の素晴らしさを少しでも感じていただき、ぜひご自身でもこの地を訪れてみたいという気持ちを持っていただければたいへん嬉しく思います。

おわりに

やはり現地開催と異なり、学会独自色(地方色?)が出しにくいと、参加者数は次第に減少するのではないかと危惧しておりましたが、Web開催となったことで、普段お忙しい先生方や、西部支部のみならず全国から多数の先生方のご参加をいただきましたこともあり、一般参加・招待者合わせまして、参加者は1,000人を超え、無事終了することができました。誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。